

## 令和5年度教育委員会の事務の点検および評価報告書（案）に対する各委員からの意見・疑問点等

## 1 報告書についての意見・疑問点等

## (1) 教育委員会の活動状況に関する点検・評価

(なし)
------

## (2) 教育委員会の施策に関する点検・評価

全体を通して	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在の評価方法は、これまで各委員から出された意見等を反映し見直しが重ねられ、数字の入った取組実績と、成果と課題、評価の項目に、進捗、成果、課題が設けられている。さらに教育委員会が当該事業をどうとらえているかを審議会委員が把握し、意見を述べるができることで、十分、客観性が担保された評価方法だと思う。</li> </ul>
P18-21	<p><b>基本目標 1 変化する社会を生きる力の育成</b></p> <p><b>施策 1 確かな学力を育む教育の推進</b></p> <p><b>1 授業改善の推進 (P18~22)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>要請訪問だけではなく学校のニーズに応じる訪問研修など、指導主事の助言等が教職員の資質向上に大きな役割を果たしている。</li> </ul>
P18-23, 25, 26	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業改善に向けた先生方の研修についての改善・充実が図られているが、「1人1台端末」が整備されたこともあり、「ICT活用指導力」の向上に関する研修の一層の充実が求められるのではないかな。</li> </ul>
P23	<p><b>2 学習の基礎となる資質・能力を育む活動の充実 (P23~27)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>各学校においては、読書活動の充実が図られるとともに、学校図書館の活用が効果的に行われている。</li> </ul>
P24	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校司書の配置が拡大され、学校図書館の環境整備に大きく寄与している。評価の◎は適切な評価である。</li> </ul>
P25	<ul style="list-style-type: none"> <li>GIGAスクールサポーターの配置は、ICT活用においては欠かすことができない。継続配置により、授業の質の向上を目指す段階に入っていると感じる。</li> </ul>
P27 (P38)	<ul style="list-style-type: none"> <li>「課題はやや大きい」とあったが、現場でも教師間の実践力の格差等を実感している。しかしながら、そのための対応として、今年度も学校ICTサポートセンター運営事業を継続してくれたことや中学校のAIDリルへの活用への啓発に力を入れていることに課題改善意識を感じる。現場としても、成果を残せるよう努力したい。</li> <li>Google Workspaceを使用した実体験をまとめ、各学校で細かく共有していただきたい。</li> <li>学校ICTサポーターから学びを受けた準ICTサポーターを各学校に選任し、各校と情報共有しスキルアップを図っていただきたい。</li> </ul>
P29	<p><b>3 学習習慣の定着に向けた取組の推進 (P28~29)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ゲーム障害やスマホ依存についての危険性の周知をさらに行っていただきたい。</li> <li>「ゲーム障害について」のHP掲載でもどれだけの家庭で把握しているか深く調査を行っていただきたい。</li> </ul>

	<p><b>施策2 豊かな心を育む教育の推進</b></p> <p><b>1 いじめの未然防止等に係る取組の推進 (P30~34)</b></p> <p>P30-32</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>函館市の子どもたちは「いじめはいけないこと」と感じている割合が全国に比べ高い。これは、市教委がリーフレットの発行や子供たちによる集会、相談員の配置等の取組を計画的に行ってきた一つの大きな成果と感じる。</li> </ul> <p>P30-34</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対応についてはシステム化されていると思いますが、もっと早い段階での発見が重要だと考えます。児童生徒にもいじめの認識が無い状態ということが現状として多いのではないかと感じる。</li> </ul> <p>P33</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>未然に防ぐ対応、相談体制の存在、スクールカウンセラーの存在を広く広めることが必要であると感じる。</li> <li>スクールカウンセラーの活用については、市教委独自で小学校への派遣を拡充できたことは、小学校として非常に有難い。</li> <li>スクールカウンセラーを配置した13校には、どのくらいの頻度でカウンセラーが滞在していたか。</li> <li>いじめの問題について、拠点校にスクールカウンセラーを配置して組織的な相談体制が構築できたことは、高く評価できるもので、出来れば今後も拡充してほしいと思う。 一方で、いじめに関して各学校と市教委との連携も重要だと思います。例えば各学校へいじめについての周知等を行った後に、その周知が学校で、どのように活かされたのかを点検することも必要ではないかと思う。</li> </ul> <p>P34</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SNSを規制することや、パトロールすることは非常に難しい。だが、学級の担任を交えたグループLINEはOKにするなど「但し書きがあるルール」を作り、他の友だち同士のLINEグループは作らない、認めないルールで運用できないかと思う。</li> </ul>
	<p><b>2 道徳教育の推進 (P35~38)</b></p> <p>P35-38</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「道徳教育」を充実させることが、いじめをはじめとする諸問題の解決に資すると考える。学生から話を聞くと、残念ながら小学校、中学校での道徳授業について印象がほとんどなく、「考え・議論する道徳」授業の経験が薄く感じる。また、道徳教育の核となる道徳科を9年間で300回以上経験したのかどうかも不安になる。道徳科の実施状況の実態把握の上で研修の改善・充実を図る必要があるのではないか。</li> </ul>
	<p><b>3 体験活動等の充実 (P39~41)</b></p> <p>P41 (P85)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教員の負担軽減、部活動の地域移行への動きをふまえると、部活動指導員の配置推進は喫緊の課題と思われる。さらなる拡充を期待する。</li> </ul> <p>P41</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中学運動部の場合は土日の援助は生徒の保護者が引率・指導が可能であると考えます。今後、毎日の指導となるとスポーツ団体の指導が必須になるが、3年は土日のみで進めると思うので所属の保護者で対応し、活動の骨子を固めるのがよろしいと思う。</li> <li>文化部に関してはやはり学校教諭の指導が必要不可欠ではないかと思えます。美術部・華道部・書道部等のスクールは存在するが、前述の部員によるパフォーマンスを必要とする部や吹奏楽部は専属の教諭なしでは考えられない。その場合は特別待遇などの措置が必要であると考えます。</li> </ul>
	<p><b>施策3 健やかな体を育む教育の推進</b></p> <p><b>1 学校保健・学校体育の充実 (P42~46)</b></p> <p>P42</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校から配布されている保健だよりの家庭での需要を増やすことも検討しなければと思う。</li> </ul> <p>P43</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>函館の地場産食品を使うことで、地域ぐるみの食育が可能であると考</li> </ul>

(P48-49)	えます。地元愛も育むことにも貢献出来、地域の特徴も学習できると思います。また、栄養教諭による「食事と生活」と「食事と運動」のような研修会や授業を取組んでいただきたい。
P47	<b>2 学校給食の充実と食育の推進 (P47~51)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>異物混入の発生等もあり自己評価は△となっているが、各調理場では安心・安全な給食を提供するために関係職員が毎日最善を尽くしている姿を目にしている。</li> <li>調理場老朽化の修繕は莫大なお金がかかる。地場産の食品を使い、学校で作られたものを温かいまま食べることができる環境は重要であると考える。</li> <li>これから夏季に向けて食材も傷みやすくなるための対策をするのであれば、改修工事を順次行う必要があると感じる。</li> </ul>
P48	<ul style="list-style-type: none"> <li>地場産であればスクールランチを検討してもよいと思うが、配送することで出来立ての温かい食事をとれなくなることが懸念材料であると考える。</li> </ul>
P49	<ul style="list-style-type: none"> <li>過去の勤務校でも感じていたが、小中両校長会より、依然として栄養教諭の業務量の多さに関して（特に兼務校では書類作成等が多く本来の食育指導の時間が取れない等）、改善の声が高まっている。そのため、「課題はやや大きい」と感じている。</li> </ul>
P51	<ul style="list-style-type: none"> <li>アレルギー対応食を提供することができたことは、「みんなと違う」ことに対して敏感な年頃の生徒たちにとって、精神的にも良い影響があったのではないかと感じる。</li> </ul>
P52-54	<b>3 安全に関する教育の推進 (P52~54)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの安全・安心を守ることが学校の使命であり、各学校が各種マニュアルの作成や危機管理体制を構築することは当然である。また、函館市では原子力災害や火山災害（離れているけど駒ヶ岳）等も含めた教職員の防災研修も必要があるのではないかと。</li> </ul>
P54	<ul style="list-style-type: none"> <li>登校時間に北朝鮮のミサイルが発射されていることが多い。学校によってあんしんメールで点呼確認を行い結果を教えてくれる学校もあれば、全く何もしない学校もあり対応がバラバラである。共通のマニュアルを作成いただきたい。</li> </ul>
P55-56	<b>施策4 幼児教育の充実</b> <b>1 幼児教育の質の向上 (P55~56)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>「1 幼児教育の質の向上」については2項目とも自己評価が△となっている。取組実績の記載を見る限り、△とは思えない。幼小連携の取組に課題が大きいとの捉えか？教育センターとしては課題意識をもち取り組んでいるのではないかと。</li> </ul>
P55 (P57)	<ul style="list-style-type: none"> <li>長年課題となっているが、幼小連携を充実していくためには、例えば、専門的に取組を進めるコーディネーター的な人材の配置などがないと難しいのではないかと。幼小ともに現場には“余力”はないのではと感じている。</li> </ul>
P55 (P57)	<ul style="list-style-type: none"> <li>幼児と児童生徒や高齢者を含めた異年齢集団によるふれあいの場が、家庭教育の充実や、学校と公民館・町内会等との連携につながるのではないかと。それらがきっかけとなり、社会教育の活性化にもつながるのではないかと。机上の空論かも知れないが、幼児を中心とした異年齢集団による取組も検討する必要があるのではないかと。</li> </ul>
	<b>2 小学校教育との円滑な接続 (P57)</b> (意見なし)

<p>P58-62</p> <p>P58</p> <p>P61</p>	<p><b>施策5 多様なニーズに対応した取組の充実</b></p> <p><b>1 特別支援教育の充実 (P58~62)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援教育に関する市の取組は年々充実してきたと考える。どの子どもどこでも学べる学校を作る上で、校内通級学級が増えることが大切だと考える。施設面や人員確保の難しさは承知しているが、子どものニーズに対応する方策として検討する必要があるのではないか。</li> <li>通常学級での特別支援学級の理解があまり見られない。</li> <li>研修会等で理解を広めた方が良くと思う。また、中学特別支援学級の見学会について広く広報いただきたい。</li> <li>特別支援教育支援員の増員は市教委の努力の賜物であり現場としてはたいへん有難い。</li> </ul>
<p>P63-64</p> <p>P63</p> <p>P65-67</p> <p>P65</p> <p>P66</p> <p>P67</p>	<p><b>2 不登校児童生徒等への支援 (P63~67)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度から不登校生徒を支援する講師の配置や「サポートベース函館」の開設等、函館市における不登校対策は計画的に効果的に進められていると感じる。</li> <li>「課題はやや大きい」との自己評価に対応すべく、令和5年度、サポートベース函館の開設や不登校生徒支援非常勤講師の5校派遣と、対策を拡充している点が現場としてはありがたい。</li> <li>児童生徒の間で「部活だけに通学している」、や「給食を食べるためだけに通学している」と話題になっていると聞く。不登校に対する児童生徒の家庭環境など理由が色々あるという認識も少しでいいから変えたほうが良いと思う。</li> <li>道新の記事でフリースクールの代表が「無料ではないから利用者が少ない」と説明していた。利用する人を増やすことで連携もさらに意味を持つてくると思う。</li> <li>フリースクールの存在意義を広く問題提起していただくことで救える児童生徒の数が増えるといいと思います。</li> <li>不登校児童生徒等への支援においては、フリースクールとの効果的な連携が深まっているように感じる。</li> <li>相談・対応件数の多さを見ると、スクールソーシャルワーカーの配置は大きな役割を果たしていると感じる。</li> <li>「はこだて子どもホットライン」の開設時間は、今後拡充させていくのか。働いている保護者がアクセスするには少し不便な開設時間だと感じた。メールでも受け付けられるとよいと感じた。</li> </ul>
<p>P69</p>	<p><b>3 就園・就学に対する支援 (P68~69)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アフタースクールへの支援は、子供の居場所づくりとしての側面があり重要でとてもありがたい。学校開放は市民向けの制度だが、児童生徒のために学校の利用を進めるのが良いと思っている。ケガなどの対応等に困るためだと思われるが、ケガをしたとき等のリスクマネジメントマニュアルを作成し、コミュニティ・スクール（以下、CS）と協力しながら放課後教室（スポーツ・遊び）を行っていただきたい。</li> </ul>
<p>P71</p>	<p><b>学校施設の維持管理 (P71)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「課題は大きい」との自己評価であるが、限られた予算の中で優先順位をつけながらこれまでも適切に対応している。成果は着実に見られるので、評価は上げてかまわないと思われる。</li> <li>学校修繕に使う予算を増やしたい。1年に2校ずつだと一周するのに30年かかる。せめて1年3校20年周期まで短縮していただきたい。</li> </ul>

P72	<b>統合校新築等事業の推進 (P72)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>本市においては、学校再編が計画的に円滑に進んできていると強く感じる。</li> </ul>
P73	<b>基本目標 2 地域とともにある学校づくりの推進</b> <b>施策 1 家庭・地域との連携・協働の推進</b> <b>1 家庭・地域と一体となった学校運営の推進 (P73~78)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>実践例を学ぶオンライン研修会の間口を広げることが可能かご検討いただき、町会・PTAを巻き込んでCSをさらに広めることが良いと思う。一般的にいて、CSを知らない人が多すぎることも大きな問題だと思っている。</li> </ul>
P76	<ul style="list-style-type: none"> <li>HPに掲載されている事例集は非常に参考になった。しかし、それが家庭に浸透していないのはHPへの掲載だけでは足りないためであると感じる。活動内容が素晴らしくても知られていなければ意味がないと思う。そもそも「家庭でCSのことを知っている人が何人いるのであろうか」というレベルであると感じる。改めて周知が必要と感じる。</li> </ul>
P78	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域にもよると思うが、参加人数を見ると、学校図書館の地域開放が地域と一体となる観点から、今後も推進すべき取組なのか疑問を感じる。</li> </ul>
P82	<b>施策 2 学校における指導体制等の充実</b> <b>1 校務運営および指導体制の工夫・改善 (P79~82)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>この項目は各学校が教育の質の向上のために努力するものであり、教育委員会の評価項目として適切なのか疑問。</li> <li>各地にAEDが設置されているが、大人子ども関係なくAEDの認識は更にあつたほうが良いと思う。子どもも使用させるのではなくとも自分も周囲の人と一緒に協力できることを覚えておくことが大事だと思う。同時に生命の大事さを学んでほしいと思う。</li> </ul>
P83	<b>2 業務改善に向けた取組の推進 (P83~86)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>働き方改革は非常に重要だと思う。だが働き方改革の本質を理解していない発言をする教員もいる。時間外労働も無給労働も問題だが、教員のモラルも問題だと思う。体制を守ることも大事だとは十分に認識しているが、言っている事と悪い事の判断がつかない教員がいることを認識いただき早急に改善いただきたい。</li> </ul>
P84	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校免許外指導解消については、道の事業対象とならなかった学校に対し、市教委として非常勤講師を配置する最大限の努力をしていると思っている。</li> </ul>
P85	<ul style="list-style-type: none"> <li>釧路の教育大学で学生がカリキュラムの一環で部活動の指導にあたっていると道新記事にあつた。函館にも教育大学があるので、予算的にも学生にとっても、ともに有益であると考えます。</li> </ul>
P86	<ul style="list-style-type: none"> <li>校務支援システムの導入は、学校の情報化、教職員の業務改善において大きな成果をもたらしている。</li> </ul>
	<b>3 教職員の資質能力の向上 (P87~89)</b> (意見等なし)
P90-93	<b>施策 3 学校間の連携・接続</b> <b>1 学校間の縦の連携・接続 (P90~92)</b> <b>2 学校間の横の連携 (P93)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校間の連携でもっとも重要なのは、近隣の小・中学校の教職員が知り合いになることだと思う。その点で、「授業公開」や「乗り入れ指導」、小・中合同の研修会などの取組は有意義だと思う。(時間の確保だけでも敬意を表します。)</li> </ul>

	<p>ただし、その根底に9年間通して子どもを指導するという意識がなければ、授業改善にもつながらないと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「小1プロブレム」「中1ギャップ」「高1クライシス」などについて学校種や規模が違えば、ギャップがあるのは当然であり子どもにとって必要な緊張感もあると思う。</li> </ul> <p>しかし、授業の進め方や教師の対応の仕方、子どもに不必要なギャップを感じさせてしまうことは問題だと思う。その点で「サポートシート」等による児童生徒理解や連携して行っている授業公開、研修会などは有意義だと思う。</p> <p>ただし、連携と同様に日常的な学校間のかかわりをどのように増やすことができるのかを検討する必要がある。</p> <p>(今後、学校規模の縮小に伴い、同校種、異校種間の行事等も必要になるのではないか。)</p>
P94	<p><b>市立小・中学校の再編の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>P72とも関連するがこの項目の自己評価が「△」であることに疑問を感じる。厳しい評価過ぎないか。</li> </ul>
P95 (P98)	<p><b>基本目標3 函館への愛着や誇りと未来へ飛躍する力の育成</b></p> <p><b>施策1 函館への愛着や誇りを育む教育の推進</b></p> <p><b>1 地域資源を活用した教育活動の推進 (P95～96)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「縄文文化交流センター」への市内全小学3年生の見学・体験は大変有意義である。函館市や周辺市町にある遺跡や文化財は世界に誇れるものであると思う。</li> </ul> <p>デジタル化した社会科副読本をインターネット等で国内、国外に発信していけるのではないか。</p>
P96	<ul style="list-style-type: none"> <li>市立函館高校の「函館学」も、これまでの生徒の取組などを市民はもとより多くの人に発信できるのではないか。</li> </ul>
	<p><b>2 地域に貢献する教育活動の推進 (P97～98)</b></p> <p>(意見等なし)</p>
P99-101 (P102-104)	<p><b>施策2 未来へ飛躍する力を育む教育の推進</b></p> <p><b>1 豊かな国際感覚を育む教育活動の推進 (P99～101)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまでコロナの関係で中止していた海外派遣や職場体験など、コロナ等に気を付けながら、どのように進めていくかが問われている。(函館大学も、留学性の派遣や受け入れなどを今年度から再開しているところである。)</li> </ul> <p>特に海外派遣については、ロシア、中国、韓国、ウクライナ等の日本との関係の変化などを十分に考慮して実施していく必要がある。子どもにとって世界に目を広げるチャンスであり函館や北海道、日本の良さを再確認できる機会になってほしい。</p>
P102-104	<p><b>2 キャリア教育の推進 (P102～104)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教員不足はもとより、看護師、理学療法士などの医療従事者も不足している。病院実習まではしなくても、職場見学の機会をもっと多くあって欲しいと思う。</li> </ul>
P106 (P26, P88)	<p><b>3 科学技術への関心を高める教育活動の推進 (P105～106)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教員の「ICT活用指導能力」を高めるための研修を積極的に実施する必要がある。</li> <li>プログラミング教育に関しては、子どものニーズや保護者、社会のニーズをとらえて実施していく必要がある。これからの子どもたちはICTを使いこなす力が求められていくと思うが、楽しく、便利に、人とか</li> </ul>

	<p>かわっていくための力として身に付けて行ってほしい。  (以前、市内の経営者の方から、「スマホは使いこなしているけど、パソコンで文書を打ったり企画書を作ったりできない新入社員が多く、入社後に研修を設定しないと仕事を任せられない。」と言われたことにショックを受けました。)</p>
P107-122	<p><b>基本目標 4 生きがいを創り出す生涯学習の推進</b>  <b>施策 1 生涯学習活動の促進</b>  <b>1 市民の主体的な学習活動の促進 (P107~122)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生涯学習活動など、数多くの取組が進められており成果もあげられている。令和5年度からコロナ前に近いような活動が始まっているが、やはり情宣活動や周知方法を検討しないと、限られた人や興味ある人・グループへの案内になると思われる。どのような方法が良いか分からないが、不特定多数に伝える方法をとらなければ、参加者の増加や関心のある人の拡大にはつながらないではないか。</li> </ul>
P117	<ul style="list-style-type: none"> <li>まなびっとの新規登録者数が令和4年度で大幅に増えた背景には、なにか新たな取組等があったのか。</li> </ul>
P118	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者が楽しみながら知識や教養を身に付け、豊富な経験等を地域社会に生かせる学びの場となっているなら良いことだと思う。  また、令和4年度から高齢者大学朝市校が開校したことで、地元の人が朝市に行く良いきっかけになっていると思う。</li> </ul>
P123	<p><b>2 学びの成果を生かす活動の促進 (P123)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>約3年間、様々な学習活動が中止、または参加を自粛していた市民にとって、今後楽しみが増えることになればと思うが、前回書いたように、いつ、どこで、何をやるのかという情宣活動を一層活発にやる必要がある。また、周知方法についても検討する必要がある。3年間で出不精人になった人もいれば、高齢になった人もいると思うので、魅力的な企画を考えてほしい。(大変苦勞されているのを分かった上で期待しています。)</li> </ul>
P124-126	<p><b>施策 2 社会教育活動の推進</b>  <b>1 社会教育施設等における学習機会の充実 (P124~126)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会教育活動など、数多くの取組が進められており成果もあげられている。令和5年度からコロナ前に近いような活動が始まっているが、やはり情宣活動や周知方法を検討しないと、限られた人や興味ある人・グループへの案内になると思われる。どのような方法が良いか分からないが、不特定多数に伝える方法をとらなければ、参加者の増加や関心のある人の拡大にはつながらないではないか。</li> </ul>
P127	<p><b>2 家庭・地域における社会教育活動の推進 (P127)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>講師の決定権が地域・団体・学校によってばらばらであると感じる。あくまでも講師または講演内容の要望に対する決定権は、必要としている層の意見を反映させることが重要だと感じる。この活動はもっと求められて然るべき活動であり、広く周知いただきたい事業である。</li> </ul>
P128-131	<p><b>基本目標 5 心の豊かさを育む文化芸術の振興</b>  <b>施策 1 文化芸術活動の促進・支援</b>  <b>1 市民の主体的な文化芸術活動の充実 (P128~131)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文化芸術活動など、数多くの取組が進められており成果もあげられている。令和5年度からコロナ前に近いような活動が始まっているが、やはり情宣活動や周知方法を検討しないと、限られた人や興味ある人・グループへの案内になると思われる。どのような方法が良いか分からないが、不特定多数に伝える方法をとらなければ、参加者の増加や関心のある</li> </ul>

	る人の拡大にはつながらないではないか。
P139	<b>2 文化芸術に接する機会の拡充 (P132~139)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>アウトリーチ事業は、子供たちが文化芸術に触れる機会として大きな役割を果たしている。</li> </ul>
P140	<b>3 文化芸術活動を担う人材の育成 (P140~141)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>青少年芸術教育奨励事業については、担当している教員が出品方法を把握していないということがあるようだ。「児童生徒の出品がない」としても、「出品方法の理解」と「開催を生徒にお知らせすること」を徹底して欲しい。学校として出品はしなくとも学校の名前で提出したい児童生徒は多いようだ。再度校内での周知をお願いしたい。</li> </ul>
P142	<b>施策2 文化遺産の保存・活用と伝統文化の継承</b>
P144-145	<b>1 文化遺産の保存・活用 (P142~147)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>観光地の特徴なのか、市民が市内の文化財に興味が無い。五稜郭タワーに上ったことが無い市民はたくさんいる。市民に向けた優遇制度があれば活用等への促進につながると思う。</li> <li>縄文遺跡群の普及・活用について、幅広く積極的に取組を進めていると感じる。</li> </ul>
	<b>2 伝統文化の継承 (P148)</b> (意見等なし)
P150-156	<b>基本目標6 健やかな心身を育むスポーツの振興</b>
P155	<b>施策1 スポーツの振興</b>
P150-156	<b>1 子どものスポーツ機会の充実 (P150~156)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツ・体育的活動など、数多くの取組が進められており成果もあげられている。令和5年度からコロナ前に近いような活動が始まっているが、やはり情宣活動や周知方法を検討しないと、限られた人や興味ある人・グループへの案内になると思われる。どのような方法が良いか分からないが、不特定多数に伝える方法をとらなければ、参加者の増加や関心のある人の拡大にはつながらないではないか。</li> </ul>
P155	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校部活動の地域移行について、「やや遅れている」との自己評価は妥当かもしれないが、この分野の改善の難しさを象徴しているともいえる。少子化をふまえた、部活動の地域移行に向けて、また学校の枠を越えた活動の在り方等について、今年度のワーキンググループからの積極的な改革案等の発信に期待する。</li> <li>先行して取り組んでいる地域の状況をいち早く取り入れ、知識としてワーキンググループに開示いただきたい。R7までは土日のみということなので、所属児童生徒の保護者が何人まで練習プログラムの作成→チームと相談をしていくことが望ましいのではないかと考える。教育大生の関わりも検討いただきたい。</li> </ul>
P157	<b>2 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進と環境の充実 (P157~169)</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>H a k o b i tのアプリを使い、「スポーツ関連の活動を行うと特典が得られる」など新たな特典を提示するなど、話題性を持たせたほうが良いと思う。お散歩ジョギングだけでなく、テニス、水泳、サッカー等なんでもいよいよ変更いただきたい。H a k o b i tの宣伝が進めば、市民の関心が出てくると思う。</li> </ul>
	<b>3 競技スポーツの促進 (P170~172)</b> (意見等なし)



## 2 質問, 確認事項等

### (1) 学習習慣の定着に向けた取り組みの推進 (P29 教育指導課)

「ゲーム障害について」のHP掲載でもどれだけの家庭で把握しているか深く調査を行っていただきたい。

〔回答〕

学校教育指導資料「ゲーム障害について」のリーフレットについては、学校関係者向けの資料として、ホームページに掲載しております。各学校では、資料等を活用しながら、長時間のゲームやSNS, 動画視聴により心配されるゲーム障害について、児童生徒や保護者へ働きかけてまいります。

### (2) いじめの未然防止等に係る取組の推進 (P33 教育指導課)

未然に防ぐ対応, 相談体制の存在, スクールカウンセラーの存在を広く広めることが必要であると感じる。

〔回答〕

いじめの未然防止, 早期発見, 早期対応においては、学校が一丸となり関係機関と連携した組織的な対応が重要です。いじめの未然防止や, 相談体制, およびスクールカウンセラーについては、保護者向けリーフレットを作成, 配付するなどしておりますが, 学校とも連携しながらさらに広く周知を図ってまいります。

### (3) いじめの未然防止等に係る取組の推進 (P33 教育指導課)

スクールカウンセラーを配置した13校には, どのくらいの頻度でカウンセラーが滞在していたか。

〔回答〕

令和4年度においては、北海道教育委員会が定めた実施要綱に基づき, 計13名のスクールカウンセラーを学校の児童生徒数に応じて, 中学校および義務教育学校には年間13回から29回, 小学校には年間1回以上, 1日4時間を基本として派遣いたしました。

### (4) 安全に関する教育の推進 (P52-54 教育指導課)

子どもの安全・安心を守ることが学校の使命であり, 各学校が各種マニュアルの作成や危機管理体制を構築することは当然である。また, 函館市では原子力災害や火山災害(離れているけど駒ヶ岳)等も含めた教職員の防災研修も必要があるのではないか。

〔回答〕

各学校においては, 児童生徒が安心・安全な学校生活を送ることができるよう災害や危機事象の発生時に対応した危機管理マニュアルを定めております。あらゆる状況を想定した防災に関する校内研修等を行い, 教職員の危機管理の意識を高めるよう努めてまいります。

### (5) 安全に関する教育の推進 (P54 教育指導課)

登校時間に北朝鮮のミサイルが発射されていることが多い。学校によってあんしんメールで点呼確認を行い結果を教えてくれる学校もあれば, 全く何もしない学校もあり対応がバラバラである。共通のマニュアルを作成いただきたい。

〔回答〕

登校時間に北朝鮮からの弾道ミサイルが発射された場合は, 学校からの連絡の有無に関わらず, 登校を一時見合わせるよう, 児童生徒へ指導する内容のリーフレットを作成し, 各学校に送付しております。子どもたちが適切な行動をとるこ

とができるよう、引き続き、各学校に働きかけてまいります。

**(6) 幼児教育の質の向上 (P55 南北海道教育センター)**

「1 幼児教育の質の向上」については2項目とも自己評価が△となっている。取組実績の記載を見る限り、△とは思えない。幼小連携の取組に課題が大きいとの捉えか。教育センターとしては課題意識を持ち取り組んでいるのではないか。

**〔回答〕**

南北海道教育センターは、幼小連携の重要性を踏まえ、幼児教育センターとしての役割を担っておりますが、幼小連携の取組には、さらなる工夫・改善が必要であると認識しております。

今後は、当教育センターが主催する教員の研修機会の充実を図るとともに、北海道教育委員会の幼児教育推進センターの研修等を活用するなどして、幼小連携のより一層の充実を図る必要があることから、今回の評価としたところであります。

**(7) 幼児教育の質の向上 (P55 南北海道教育センター)**

長年課題となっているが、幼小連携を充実していくためには、例えば、専門的に取組を進めるコーディネーター的な人材の配置などがないと難しいのではないか。幼小ともに現場には“余力”はないのではと感じている。

**〔回答〕**

幼小連携については、令和5年度から「幼保小連携連絡会議」を設置し、函館保育協会、函館市私立幼稚園協会および小学校校長会等が連携を図ることとしております。本連絡会議での協議等を通じて、幼児教育の質的向上や核となる人材の育成方法等について検討を進めてまいります。

**(8) 幼児教育の質の向上 (P55 南北海道教育センター)**

幼児と児童生徒や高齢者を含めた異年齢集団によるふれあいの場が、家庭教育の充実や、学校と公民館・町内会等との連携につながるのではないか。それらがきっかけとなり、社会教育の活性化にもつながるのではないか。机上の空論かも知れないが、幼児を中心とした異年齢集団による取組も検討する必要があるのではないか。

**〔回答〕**

異年齢集団による交流や取組については、「社会に開かれた教育課程」の理念のもと、学校間の連携を図るとともに、家庭や地域社会との連携および協働を深めることが大切であると考えております。

まずは、幼児と児童生徒による幼小連携および学校間の接続について、改善・充実に向けた取組を進めてまいります。

**(9) 特別支援教育の充実 (P58 南北海道教育センター)**

通常学級での特別支援学級の理解があまり見られない。研修会等で理解を広めた方が良くと思う。また、中学特別支援学級の見学会について広く広報いただきたい。

**〔回答〕**

南北海道教育センターでは、教員向けの特別支援教育に関する複数の研修講座を開設しており、今後も研修講座の開催について周知を図り、特別支援教育への理解がさらに深まるよう努めてまいります。

また、中学校特別支援学級の見学については、見学可能日を一覧にして各学校へ配付しており、引き続き、広く周知するよう働きかけてまいりたいと考えております。

(10) 不登校児童生徒等への支援 (P67 南北海道教育センター)

「はこだて子どもホットライン」の開設時間は、今後拡充させていくのか。働いている保護者がアクセスするには少し不便な開設時間だと感じた。メールでも受け付けられるとよいと感じた。

〔回答〕

対応を行っている「こころの相談員」の勤務時間の関係から、開設時間の拡充は難しいと考えております。また、メールでの相談受付については、道の事業である「ほっかいどうこどもライン相談」で対応しております。今後も不登校等の子どもが必要に応じて活用できるよう周知を図ってまいりたいと考えております。

(11) 学校施設の維持管理 (P71 施設課)

学校修繕に使う予算を増やしたい。1年に2校ずつだと一周するのに30年かかる。せめて1年3校20年周期まで短縮していただきたい。

〔回答〕

外壁および暖房設備の改修工事の実施校数については、当課としても、1年に3校ずつの改修を検討したところではありますが、その他の改修工事の実施も必要なことから市の財政状況より2校となっております。今後も引き続き、学校施設の老朽化の状況や市の財政状況を勘案し、改修計画を進めてまいります。

(12) 家庭・地域と一体となった学校運営の推進 (P76 学校再編・地域連携課)

HPに掲載されている事例集は非常に参考になった。しかし、それが家庭に浸透していないのはHPへの掲載だけでは足りないためであると感じる。活動内容が素晴らしくても知られていなければ意味がないと思う。そもそも「家庭でCSのことを知っている人が何人いるのであろうか？」というレベルであると感じる。改めて周知が必要と感じる。

〔回答〕

市のコミュニティ・スクール（以下CS）の取組を掲載する当該事例集やリーフレットにつきましては、市が主催するCSに関する会議等で活用しているほか、市ホームページ（以下HP）への掲載、全市立学校・地域コーディネーター・関係機関等への送付等を行っています。また、各学校が発行する学校だよりでも掲載しています。今後は、学校HP、CSだより、各学校運営協議会等を通じて、当該事例集や市HP等について周知いただくよう依頼するなど、CSに関する情報が各家庭により届くよう、さらなる広報活動を行っていきたいと考えています。

(13) 市立小・中学校の再編の推進 (P94 学校再編・地域連携課)

P72とも関連するがこの項目の自己評価が「△」であることに疑問を感じる。厳しい評価過ぎないか。

〔回答〕

学校再編の取組については、これまで、「函館市立小・中学校再編計画」に基づき進めてきたところですが、今後、改めて進め方等について検討していく必要があることから、今回の評価としたところでございます。

(14) 地域資源を活用した教育活動の推進 (P95 教育指導課)

デジタル化した社会科副読本をインターネット等で国内、国外に発信していけるのではないか。

〔回答〕

社会科副読本は、学校教育の充実に資することを目的としており、掲載されて

いる画像データ等は、著作権等に十分配慮する必要があることから、インターネット等での発信は難しいと考えております。

**(15) 市民の主体的な学習活動の促進 (P117 生涯学習文化課)**

まなびっとの新規登録者数が令和4年度で大幅に増えた背景には、なにか新たな取組等があったのか。

**〔回答〕**

「まなびっと広場」の新規登録者数が大幅に増えた主な要因といたしましては、毎年事業のPRを行っている高齢者大学の入学者が昨年度よりも増加したことや、コロナ禍で新規登録を控えていた方が、行動制限の緩和に伴い、多数登録したことがあるものと考えられます。

なお、令和4年度におきましては、ホームページ（以下HP）を見やすく改訂したことや、講座ガイドブックにQRコードを表示し、HPへのアクセスをしやすくしたこと等の改善を行ったところでございます。

**(16) 家庭・地域における社会教育活動の推進 (P127 生涯学習文化課)**

講師の決定権が地域・団体・学校によってばらばらであると感じる。あくまでも講師または講演内容の要望に対する決定権は、必要としている層の意見を反映させることが重要だと感じる。この活動はもっと求められて然るべき活動であり、広く周知いただきたい事業である。

**〔回答〕**

「家庭教育セミナー」は、家庭教育や子育てに関係する専門分野の登録講師を派遣する事業であることから、幼稚園や学校、PTA等の団体にご案内しており、団体からの希望に応じ、講師や講演内容等を調整し、講師を派遣しているものでございます。

セミナー終了後には、利用団体や参加者からアンケート等でご意見等をいただいております。皆様からの声を踏まえ、今後も事業内容の改善や見直しを進めてまいります。

**(17) 文化芸術活動を担う人材の育成 (P140 生涯学習文化課)**

青少年芸術教育奨励事業については、担当している教員が出品方法を把握していないということがあるようだ。「児童生徒の出品がない」としても、「出品方法の理解」と「開催を生徒にお知らせすること」を徹底して欲しい。学校として出品はしなくとも学校の名前で提出したい児童生徒は多いようだ。再度校内での周知をお願いしたい。

**〔回答〕**

当該事業における作品等の募集につきましては、例年6月上旬に各学校に案内しているところですが、ご指摘を踏まえ、学校から当該事業について児童生徒への周知がされるよう働きかけてまいります。

**(18) 子どものスポーツ機会の充実 (P155 教育政策課)**

学校部活動の地域移行について、「やや遅れている」との自己評価は妥当かもしれないが、この分野の改善の難しさを象徴しているともいえる。少子化をふまえた、部活動の地域移行に向けて、また学校の枠を越えた活動の在り方等について、今年度のワーキンググループからの積極的な改革案等の発信に期待する。

先行して取り組んでいる地域の状況をいち早く取り入れ、知識としてワーキンググループに開示いただきたい。R7までにまずは土日からということなので、所属児童生徒の保護者が何人まで練習プログラムの作成→チームと相談をしていくこ

とが望ましいのではないかと考える。教育大生の関わりも検討いただきたい。

〔回答〕

教育委員会としましては、令和5年6月21日に第1回目の函館市学校部活動の地域連携・地域移行等に関する協議会を開催したところです。

部活動の地域移行に向けては様々な課題があることから、地域や学校の実情等に応じて、段階的に地域移行の実現を目指していく考えでございます。このため、当面は、学校が主体となり、学校教育の一環としての学校部活動における地域連携の取り組みと、地域が主体となり、社会教育の一環としての地域クラブ活動への地域移行が並存する形になるものと考えており、国が位置付けている令和5年度から令和7年度までの3年間の改革推進期間に、まずは、休日の学校部活動の地域連携や地域移行について検討を進めていきたいと考えております。